

実践事例 No. 6 テーマ『学校・家庭・地域が一体となって推進する読書活動（読書推進）』
軽米町；笹渡小・中学校実践区

<笹渡小・中学校「まなびフェスト」における読書活動についての目標>

- ★小学校・・・「一人一人の年間の読書量を増やします。1・2年生100冊、3・4年生70冊、5・6年40冊 手だて・朝読書及び読み聞かせの充実を図ります」
- ★中学校・・・「中学生推薦図書等の読書に取り組みます。年間目標冊数12冊（推薦図書5冊含む） 手だて・朝読書及び読書週間等の取り組みを充実させます」

1 こんな課題が

- ・読書になかなか興味をもてない子がいる。
- ・読書する時間が不足している子がいる。
- ・読書するときに集中して読んでいない子がいる。
- ・家庭の中で読書するのにふさわしい環境が確保できない場合がある。

2 課題解決のための取組内容と目標は

【目標】読書活動に興味を持たせ、様々な取り組みや環境整備を通して望ましい読書習慣を身につけさせる。

【取組】保護者・学校・地域のそれぞれの役割を自覚し、目標達成に効果的な取り組みをする。

3 どんな役割と連携で

保護者

- ・家庭における読書環境を整える。
- ・ノーメディアの取り組みをする。
- ・親子読書・家庭読書の取り組みをする。

学 校

- ・「まなびフェスト」の達成を目標に読書指導の計画推進を図り、読書意欲を高める。
- ・学校図書館の環境整備を図る。

地 域

- ・子ども会における読書活動を計画的に行う。
- ・地域の公民館にある蔵書を有効に活用する。

4 どんな実践を

◎保護者

- ・家庭で親子読書や読み聞かせをする。長期休業中は「ファミリー読書DAY（家族で読書する日）」の取り組みをする。
- ・長期休業中にノーメディア運動に取り組む。

◎学校

- ・小学校では毎週火曜日の朝自習の時間、中学校では毎日の朝自習を「読書の時間」と位置づけ、読書の時間を確保する。
- ・読書ボランティア（3人）による、月2回の読み聞かせを実施する。

◎地域

- ・地区ごとに子ども会単位の読書会を開催する（年1～2回）。
- ・地区全体での読書会（ブックトーク）を年1回行う。

5 目標達成度の評価方法は

●学校において

- ・学期途中と年度末に読書冊数をチェックし、目標達成できた子は励まし、達成できなかった子は目標達成ができる様に指導の手立てを工夫する。

●教育振興会において

- ・教育振興会役員及び教育振興会読書班会議で、活動計画の進捗状況等を話し合い、必要な援助について話し合う。

6 取り組みのPR

本地区は、読書活動が盛んな地域であり、その伝統を引き継いだ活動が今も行われており、学校・家庭・地域が連携しながら子どもたちの読書活動に取り組んでいます。

地区子ども会
ブックトークの様子

